

10年後の町をどのように想定しているか

三友美恵子 議員



「協働のまちづくり」を進めているわが町は、活動的であり、他の町村からも注目されている。今後、学校の建

Q 当面自律を選択した町の10年後を、どのように想定しているか。

A 町長 当面自律は正しい判断であったと思う。3万8千人の町の規模は、きめ細かな行政ができる。

「協働のまちづくり」を進めているわが町は、活動的であり、他の町村からも注目されている。今後、学校の建

Q 町民ニーズの把握はどのように行っているか。町民にアンケートをとるべきではないか。

A 町長 昨年度、住民満足度調査を実施

替えなどが予定されているが、財政シミュレーションによれば、財政は現在と変わらず推移し、10年後も自律できる力は充分ある。しかし世の中が大変早く動いている。玉村町もその流れに乗り遅れないように対処していく。

Q 町の自殺防止対策は、どのように行っているか。

A 町長 亡くなった方の多くが、心の病気を抱え、誰でもかかる可能性がある。早期に治療する

※パブリックコメント制度
町が計画や条例などの案を事前に公表し、町民の皆さんからの意見を伺い、寄せられた意見に対して町の考え方を公表するとともに、その寄せられたご意見を考慮して最終案をつくってまいります。



にぎわいをみせた北部公園フェスティバル(5/20)

食農教育を問う

斉藤 嘉和 議員



Q 玉村町の小中学校では、どのような農業体験学習、食農教育を行っているか。

A 教育長 小学校については、現在すべての小学校において、学校近くの休耕田などを学童農園として借り、米作りという体験学習を行っている。三年生、または五年生の「総合的な学習の時間」や社会科学

で、種籾をまくところから、田植え、稲刈り、そして収穫した米を使つての餅つきまで、一貫した食農体験学習を行っている。

この体験学習を通して、子供たちは米作りという実体験をもとに、農業そのものや農業に従事する人の工夫や努力を理解することが出来る。また、自分たちが収穫したものを調理して食べるという体験が、食糧自給の大切さや生命をいとおしむ心を育てることにつな

がっている。

ほかにも、学校によっては、学年学級の取り組みとして野菜作りをしながら「食に関する指導」を行っている。

中学校では、玉村中学校の二年生が毎年六月に長野県の山ノ内町に出かけ、りんご・ぶどうなどの農業体験学習を行っている。

Q 農業やそれらに関する分野での副読本や教材を使っているか。

A 教育長 小学校三年、四年生向けに「わたしたちの玉村町」という社会科副読本を教育委員会で作成し、学習を進めている。

この中には、稲作など玉村町の農業の現状などについても詳しく記述され、児童は地域の産業についての理解を深めている。



南小の田植え風景

広域解散後の現況と町の姿勢を問う

筑井 あけみ 議員



Q 広域解散後2年半が経過した。総合計画では解散前より利便性の向上を一層図るとしているが、図られたのか。

A 町長 解散後も住民サービスは低下していないと考えている。

Q 行政面の関係と、市側の対応はどうか。

A 町長 「たまりん」

の乗り入れなど、

連携をとっている。今までは伊勢崎市におんぶされていた佐波郡だったが、今の玉村町は対等な立場である。近隣には、より一層協力してもらおうのがプラスになる。

Q 統一地方選挙後、賢明な新首長を中心に、将来を考えた新たな合併を模索する第三幕が始動した。これをどう思うか。

A 町長 合併に向け、積極的な姿勢を示す

首長がいるのは事実だが、

3年前に自律を決断した私の方針は変わらない。

Q 公約で住民投票をするとしたが、合併に関しての民意を汲み取る努力と、研究をしているか。

A 町長 自律を選択したので、合併に限ったので、合併に関するの民意を汲み取る努力、研究は行っていない。

Q 生活道路の整備の対象となる、町内全域の実総延長距離はどのくらいか。また、年間予算1200万円では、対応は出来

ないのは明らかである。財源不足の確保はどうするの

A 町長 平成19年3月末現在で合計1383路線、約330kmである。毎年10km程度改良が必要と思われる。9月・12月議会において、補正予算で対処していきたい。

都市建設課長 当初予算では、各地区からの様々な要望に対応しきれない。概算で一億円かかる。



ベイシアの進出が決まる前橋南IC周辺

あぶない！ こわい！ 国道354号

中里 知恵子 議員



Q 特定高齢者候補の選定方法と介護予防策を示せ。

A 町長 基本健康診査「しなやか健診」の結果から特定高齢者を選定し、運動機能の向上、栄養改善、閉じこもり予防支援などのプログラムに参加していただく。また、栄養士などが直接訪問して事業を実施する。

Q しなやか健診を受けなかった人に対してはどうするのか。

A 町長 各地区の保健推進員などから情報を集める。

Q 筋力向上トレーニングが公民館などで2年がたつが、今後は保健・医療の見地から実施効果データをまとめたらどうか。

A 町長 そうしたいと考えている。

Q 交通量が増えているが、歩道は狭く、十分な整備がされていない。住民にとって危険な状態だ。安全性を確保する早急な対策を問う。

A 町長 平成17年度の調査報告書によると、下新田地点における24時間の交通量は1万3531台で、6年前とほぼ同数だ。早期に生活道路としての再整備をし、沿線住民の生活改善を図るよう県へ要望したい。

Q 去る5月、風に揺れる樹木を避けようとした帰宅途中の玉村高校生が、自転車もろとも車道に転落。右半身の打撲と捻挫で通院している。また、背後から車のミラーに腕をたたくれ、通院した住民もいる。

A 町長 国道354号裏通りの町道では、平成18年度に自転車道の整備がほぼ終わっている。そちらを通行していただきたい。



歩道はごみの置き場だ（国道354号 上新田地点）